

# 心の声 素直に感じて受けてみよう 悩みに寄り添うストレスチェック

陸災防「平成 29 年度 安全衛生標語」健康部門 入選作品



**平成 29 年 12 月 No.581**  
発行所 陸上貨物運送事業労働災害防止協会  
〒108-0014 東京都港区芝 5 丁目 35 番 2 号  
安全衛生総合会館内 ☎03-3455-3857 代表  
<http://www.rikusai.or.jp>  
(印刷物による年間購読料 3,600 円)

## みんなで築く安全職場 総力挙げて目標達成 12 次防

陸災防「第 12 次陸上貨物運送事業労働災害防止計画目標達成取組強化期間」(7 月～12 月) スローガン

- 第 53 回全国陸運労災防止大会開催 …… (1)～(3)
- 全国陸運労災防止大会 川合会長挨拶 …… (3)
- 安全衛生表彰等の受賞者の方々 …… (4)～(5)
- 全国陸運労災防止大会 大会宣言 …… (6)
- 「安全衛生教育促進運動」の紹介 …… (6)
- 事例発表「『フォークリフト荷役技能検定』取得で災害撲滅への取組」秋田海陸運送㈱ …… (7)～(8)
- ロールパレット安全作業研修会のご案内 …… (9)
- 過労死等防止対策セミナーのご案内 …… (10)
- 安全管理士の着眼点 …… (11)
- 小企業無災害記録表彰 …… (12)
- 労働災害発生状況 …… (12)
- 「陸運労災防止規程」の変更を行いました …… (12)

# 第 53 回 全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会 11 月 6 日(月) 新潟県で盛大に開催



### 第 53 回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会

当協会主催、厚生労働省、国土交通省、警察庁及び新潟県の後援による「第 53 回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会」が、11 月 6 日(月)、新潟県新潟市のりゅーとぴあ(新潟市民芸術文化会館)において、全国各地からおよそ 750 名の会員、関係者の参加を得て、盛大に開催されました。

今大会は、本年の死亡者数が前年同期に比べ大幅に増加しており、厚生労働省から「職場における死亡災害撲滅に向けた緊急要請」が発出され、さらに、死傷者数も大幅に増加しており、また、今年、「労働災害防止 5 年計画」の最終年度であり、陸災防では、計画の目標を達成するため、7 月から 12 月を目標達成取組強化期間と位置づけていることから、なお一層積極的な労働災害防止活動を展開していくことを決意する大会となりました。

### I 大会式典

大会は、国歌斉唱、労働災害等により亡くなられた方々への黙祷に続き、開催地の新潟県支部高橋浩支部長からの「新潟は、江戸時代中期の元禄の頃より、日本海最大の港町として栄え、明治元年に開港 5 港の一つとして開港し、多くの工場が進出、近代的な都市として発展してまいりました。現在では、本州日本海側唯一の政令指定都市となり、合わせて、日本海側の高速交通拠点となっております。本大会が、新潟の地で、このように盛大に開催されますことを心より御礼申し上げます。」という開会の辞で始まりました。



開会の辞  
高橋浩新潟県支部長

次いで、川合正矩会長が挨拶を述べ（要旨を 3 頁に掲載）、厚生労働大臣（代読：厚生労働省労働基準局田中誠二安全衛生部長）、国土交通大臣（代読：国土交通省北陸信越運輸局江角直樹局長）、警察庁長官（代読：警察庁関東管区警察局山岸一生広域調整部長）、新潟県知事（代読：新潟県溝口洋副知事）の各来賓からご祝辞をいただきました。

続いて表彰では、安全衛生表彰の事業場・団体表彰（45 事業場・1 団体）、個人表彰（36 名）、永年勤続表彰（7 名）、優良フォークリフト等運転者表彰（159 名）が行われ、川合会長から代表の方々に賞状と記念品が贈られました（各賞の受賞者を 4～5 頁に紹介）。



安全衛生表彰

次いで、安全衛生標語の入選作品紹介、顕彰及び入賞者への表彰が行われました。

大会式典の最後に、東京都支部千原武美支部長から大会宣言（案）（6 頁に掲載）が力強く読み上げられ、満場一致で採択されました。

大会宣言  
千原武美東京都支部長

## II 講演

講演として、厚生労働省労働基準局田中誠二安全衛生部長による「労働安全衛生行政の動向」と題した講演が行われました。

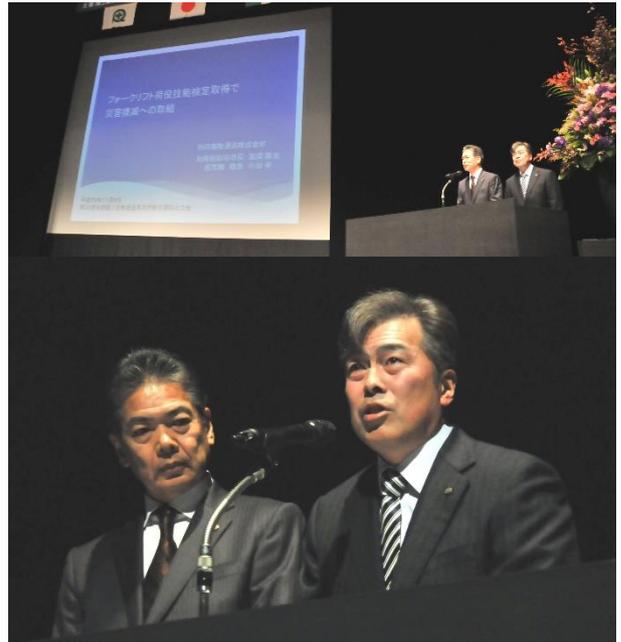


厚生労働省労働基準局田中誠二安全衛生部長の講演

## III 事例発表

事例発表は、秋田県支部所属の秋田海陸運送株式会社取締役総括部長風間隆夫氏、営業部現業課職長中田孝氏から、「『フォークリ

フト荷役技能検定』取得で災害撲滅への取組」と題して行われました（要旨を 7～8 頁に掲載）。



秋田海陸運送株式会社 風間隆夫氏、中田孝氏の事例発表

## IV 特別講演

特別講演として、生椿の自然を守る会会長高野毅氏から「人とトキのかけはしになる」と題し「親子二代で特別天然記念物トキの餌場作りに努めております。トキが安心して暮らせる社会は、人にとっても安心できる社会です。」との講演が行われました

生椿の自然を守る会会長 高野毅氏の特別講演  
トキについて（環境省作成リーフレット）

<https://www.env.go.jp/nature/toki/pamph/1703/full.pdf>

トキの最新情報（環境省作成ホームページ）

<http://blog.goo.ne.jp/tokimaster>

## 閉会の辞

平成 30 年 11 月 1 日開催の次回第 54 回大会の開催地である富山県支部綿貫勝介支部長から「来年の第 54 回全国大会は富山県での開催となります。

閉会の辞  
綿貫勝介富山県支部長

11 月上旬頃には「立山黒部アルペンルート」や黒部峡谷等では壮大で感動的な紅葉が見られるものと思います。

また、富山湾は、「海越しの立山連峰」の景観や蜃気楼等の神秘的で特徴ある自然現象などの景勝地であり、四季折々で多彩な魚介類が獲れることから、「天然の生けす」とも言われており

ます。

大勢の皆様に参加していただき、富山県の景観とともに、富山湾の旬の味に舌鼓を打っていただきたいと思っております。

富山県支部一同、心からお待ちいたしております。」という閉会の辞が述べられ、来年の再会を期して今大会が締めくくられました。

## 第 53 回 全国陸運労災防止大会 川合正矩会長挨拶（要旨）

本日の大会には、全国各地から大変多くの皆様にお集まりいただき、お陰様で、このように盛大に本大会を開催できました。心から厚く御礼申し上げます。

さて、陸運業における労働災害は、会員事業場のたゆまぬご努力により、長期的には、減少傾向にあり、死亡災害は、昨年初めて 100 人を切り 99 名となりましたが、今年に入り、9 月末で、80 人、対前年同期比 50% 増となり、大幅な増加になっております。

昨年は、墜落・転落等の荷役災害の減少が顕著でありましたが、今年は荷役災害が再び増加していることが懸念されます。

一方、死傷災害は、一昨年それまでの増加傾向に歯止めがかかったところですが、昨年再び増加に転じ、今年に入っても増加傾向が続いています。

こうした死亡災害の大幅な増加傾向を踏まえ、9 月には厚生労働省から、「職場における死亡災害撲滅に向けた緊急要請」が発出され、各支部に通知するとともに、本大会資料でもお配りしたところです。

今年、「労働災害防止 5 か年計画」の最終年度であり、陸災防では、計画の目標を達成するため、7 月から 12 月を目標達成取組強化期間と位置づけ、荷役災害等労働災害の防止に取り組んでいるところでありますが、本要請も踏まえ、本部・支部一体となって、荷役作業の安全対策の徹底、交通労働災害の防止等、より一層の労働災害防止に積極的に取り組んでまいります。

また、陸運業においては、高齢化、長時間労働等の影響により、脳・心臓疾患、過労死等の労災認定件数が、平成 28 年度においても 89 件と全業種の中で、依然として突出している状況が続いており、健康診断の有所見率も 59.4% と高水準で推移していることから、労働者の健康確保も大きな課題となっております。



本大会の事例発表では、秋田海陸運送株式会社様から、フォークリフト荷役技能検定を活用した災害撲滅に向けた取組事例を発表していただきます。

フォークリフト荷役技能検定制度については、平成 27 年度から検定 2 級試験を開始し、更に本年は、初めて検定 1 級試験を実施いたしました。

陸災防としては、本検定制度が、安全・正確・迅速なフォークリフト荷役作業を進めるための有効な制度として広く周知されるよう取り組んでいるところであり、本大会における事例発表を参考にしたいと考えております。

陸運業は、厳しい経営環境のもとにあります。我が国の経済活動と国民生活を支える物流の中核であります。このような機能を果たしていくうえで、そこで働く人々の安全と健康を確保していくこと、そして昨今の「働き方改革」で求められている長時間労働の抑制など労働環境を改善していくことは事業者の責務であり、有用な人材の確保はもとより、陸運業界の発展のためには、何よりも重要なことでもあります。

皆様方におかれましては、本大会を契機に、これまで以上に充実した実効ある労働災害防止活動を展開されますようお願い申し上げます。

結びに、本大会開催に大変ご尽力をいただきました陸災防新潟県支部の皆様をはじめ関係者の方々に厚く御礼申し上げますとともに、皆様方の事業場の益々のご繁栄と無災害を心から祈念し、私の挨拶といたします。

# 第 53 回 全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会 安全衛生表彰等の受賞者の方々

(敬称略)

## 1 安全衛生表彰

### 事業場・団体表彰

#### 優良賞 (9 事業場)

北海道 SBSフレックネット株式会社 北見営業所  
茨城県 国際ロジテック株式会社 水戸営業所  
群馬県 東群運送株式会社  
日本梱包運輸倉庫株式会社 群馬営業所  
新潟県 西川運輸興業株式会社  
愛知県 脇田運輸倉庫株式会社  
大成運送株式会社  
徳島県 有限会社西阿運送  
熊本県 有限会社草部運送

#### 進歩賞 (36 事業場)

青森県 平和運送株式会社  
福島県 株式会社ユミタ運輸  
群馬県 金田運輸株式会社  
栄運輸株式会社  
埼玉県 有限会社木村運送  
株式会社浅井物流サービス  
東京都 鈴直運送株式会社  
レンゴーロジスティクス株式会社 葛飾営業所  
新潟県 中越運送株式会社本社  
新潟トランスポート株式会社  
上越運送株式会社  
岐阜県 株式会社松井急便  
静岡県 東豊運輸株式会社  
森町運送有限会社  
愛知県 株式会社フジトランスライナー  
滋賀県 滋賀センコー運輸整備株式会社  
奈良県 株式会社辻本運送  
有限会社平和運輸  
鳥取県 落合建材  
竹本運送有限会社  
島根県 出雲運送株式会社  
邑南運送有限会社  
山口県 株式会社タカツキ  
有限会社森運送  
徳島県 川本運送有限会社  
香川県 有限会社丸島運送店  
愛媛県 保内運送有限会社  
大東建設株式会社  
高知県 有限会社南国物流  
福岡県 牛乳輸送株式会社

福岡県 日本梱包運輸倉庫株式会社 門司営業所  
長濱運送有限会社  
熊本県 有限会社郡浦運送  
大分県 センコー株式会社 北九州支店 大分営業所  
宮崎県 有限会社山下産業  
鹿児島県 有限会社宝船

#### 団体賞 (1 団体)

埼玉県 陸運労災防止協会 埼玉県支部 久喜分会

### 個人表彰

#### 功労賞 (6 名)

山形県 奥山 公吉 (陸運労災防止協会山形県支部常任委員)  
埼玉県 桶本 吉男 (株式会社中島運輸)  
千葉県 池田 和彦 (株式会社池田自動車運輸)  
山梨県 宮川 武 (株式会社甲斐延)  
遠藤 夏樹 (山梨陸送有限会社)  
静岡県 杉山 節雄 (静北運輸株式会社)

#### 功績賞 (30 名)

青森県 松倉 恒廣 (有限会社松広運輸)  
岩手県 諏訪田伸悟 (陸運労災防止協会 岩手県支部講師)  
宮城県 遠藤 清市 (陸運労災防止協会 宮城県支部講師)  
佐藤 正蔵 (陸運労災防止協会 宮城県支部講師)  
熊谷 紀夫 (陸運労災防止協会 宮城県支部講師)  
福島県 佐久間幸一 (陸運労災防止協会 福島県支部指導員)  
高橋 亀一 (陸運労災防止協会 福島県支部講師)  
栃木県 八下田 茂 (協和株式会社)  
松元 憲一 (岡野運送株式会社 栃木営業所)  
埼玉県 小池 孝治 (有限会社小池運送)  
森田 康士 (森田運送株式会社)  
千葉県 高橋 功 (共同通運株式会社)  
伊藤 禧雄 (伊藤運送株式会社)  
神奈川県 西脇 大志 (西脇輸送産業有限会社)  
沖島由二郎 (川崎北部市場運送サービス株式会社)

神奈川県 木下 良一 (共栄輸送株式会社)  
 望月 純一 (川崎運送株式会社)  
 岡田 豊文 (菱大ローリー株式会社)  
 山口 拓示 (有限会社東西運輸)

静岡県 高木 美彰 (日軽物流株式会社)  
 鈴木 啓之 (株式会社アイデックス)

大阪府 田川 恭子 (大橋実業運輸株式会社)

広島県 西尾 保幸 (中国陸運株式会社)  
 門脇雄一郎 (備後海運株式会社)  
 和田 賢 (株式会社和田組)

香川県 島本 良一 (陸運労災防止協会 香川  
 県支部講師)

福岡県 壽浦 英之 (昭和運輸有限会社)  
 檀 和利 (宝生流通システム株式  
 会社)

福岡県 宮内 勝哉 (トラフィック 34)  
 大分県 中島 康博 (豊後通運株式会社)

### 2 永年勤続表彰

#### 30 年勤続 (1 名)

本部 吉田 健一

#### 20 年勤続 (2 名)

北海道 板垣 政志  
 本部 木下健太郎

#### 10 年勤続 (4 名)

千葉県 庄司 一章  
 中平 孝美

兵庫県 田中 一雄

愛媛県 西原 直樹

### 3 優良フォークリフト等運転者表彰 (159 名) (支部別)

<b>北海道</b>	加藤 賢一	天瀬 長喜	土屋 孝光	圓城 規之	寺戸 信幸	有吉 義憲
佐藤 君夫	原田 哲志	<b>神奈川県</b>	小井土茂幸	<b>大阪府</b>	松本 圭治	吉田 裕輝
景山 守彦	<b>群馬県</b>	鈴木 智史	田中 久	潮津 隆次	半田 活巳	田畑 太
<b>青森県</b>	村上 正雄	佐々木透人	<b>岐阜県</b>	山脇 高広	小畑 一八	<b>佐賀県</b>
元沢 寿	宮前 英夫	原 浩一	安部 秀紀	西岡 佳弘	<b>山口県</b>	田中 良治
岡本 大治	高橋 陽一	長谷川 充	江崎 和茂	稲垣 憲治	大隈 守	野上 光宏
香月 敬	飯塚 一昭	池田 孝行	林 実男	高橋 輝	金崎 岩夫	吉田 鉦平
<b>岩手県</b>	<b>千葉県</b>	福島 訓	亀山 正宏	片山 伸治	<b>徳島県</b>	岩村 大輔
千葉 幸弘	高橋 彰	中山 忠晴	土屋 英紀	長田 勇	金澤 収	<b>熊本県</b>
佐藤 三彦	白木 章裕	松本 哲雄	西下 晃	渡司 公浩	原田 啓三	千鳥 豪
千葉 明吉	小川 浩史	<b>新潟県</b>	<b>静岡県</b>	若林 秀樹	蔭山 浩史	後藤 純史
西 嘉久	小川 健二	横山 悦美	鈴木 貞彦	常吉 信二	<b>香川県</b>	古庄 範光
高橋 一夫	関口 修	<b>富山県</b>	鈴木 健一	<b>兵庫県</b>	高橋 孝広	大野 学
<b>山形県</b>	向後 守視	小山 治雄	<b>愛知県</b>	川西 健	中田 善香	<b>大分県</b>
鈴木 正則	熊野 文博	木村 吉成	石田 雄二	<b>奈良県</b>	池田 一	安部 修司
羽角 洋之	東條 健一	竹内 敏之	重光ミノル	大谷 真一	谷口 和也	<b>宮崎県</b>
小林 秀之	<b>東京都</b>	加治 崇廣	加藤 利幸	金谷 直樹	<b>愛媛県</b>	東 喜代昭
須藤 彰二	蛸原 大樹	渋谷 貴正	名和 清人	<b>鳥取県</b>	松木 政行	鳥原 宏樹
<b>福島県</b>	福田 昇	<b>石川県</b>	山田 浩巳	北村 要	横田 敦司	森田 太
池田 香樹	高橋 克友	山内 賢治	木村 好太	橋上新一郎	長田 新市	<b>鹿児島県</b>
菊地 隆男	石井 伸征	由藤 淳也	原田 誠一	<b>岡山県</b>	坂本 透	岩爪 新治
五十嵐 亮	慶田盛順五	<b>長野県</b>	田村 純一	山本 哲也	中矢 昌彦	杉原 聡
片寄 淳一	影山 貴博	重田 眞二	菅田 祐	山口 竜輔	本多 峰男	神野 勝雅
横田 慎一	菊地 英夫	塩崎 健一	<b>三重県</b>	楨井 靖	<b>高知県</b>	川下 義一
<b>栃木県</b>	山川 博三	窪田 誠	金井 清和	五軒濱 守	山口 高德	内村 勝浩
野中 友幸	君成田 努	山浦富美子	澤田 和彦	加藤 秀和	高橋 敬二	<b>沖縄県</b>
栗原 弘行	高橋 直明	林 剛	庭田 剛	大原 弘之	<b>福岡県</b>	金城 勝昭
福田 英範	岩下 正弘	清水 尚	<b>滋賀県</b>	<b>広島県</b>	近藤 康広	久貝 秀人

## 第 53 回 全国陸運労災防止大会 大会宣言

陸運業は、我が国の経済活動と国民生活を支える物流の中核として重要な役割を担っている。陸運業がその役割を果たしていく上で、そこで働く人々の安全と健康を確保していくことは必要不可欠である。

陸運業における労働災害は、会員事業者のたゆまぬ努力により、長期的には減少傾向にある。死亡災害は、昨年、初めて 100 名を切る 99 名となり大幅に減少したが、今年に入り、墜落・転落等の荷役災害の増加等により大幅に増加している。一方、死傷災害は、一昨年それまでの増加傾向に歯止めがかかったものの、昨年再び増加に転じ、今年に入っても増加傾向が続いている。加えて、陸運業における過労死等の労災認定件数は、全業種の中で突出して多い状況が続いている。

今年、「労働災害防止 5 か年計画」の最終年度である。陸災防では、7 月から 12 月までを目標達成取組強化期間とし、厚生労働省が推進している荷役 5 大災害防止対策の徹底、荷役ガイドラインの内容等を加えて変更した陸上貨物運送事業労働災害防止規程の周知などに取り組んでいるところであるが、死亡災害の大幅な増加、厚生労働省からの「職場における死亡災害撲滅に向けた緊急要請」等を踏まえ、荷役災害防止・交通労働災害防止に向け、本部、支部、会員事業者が一体となって、取組を一層強化していくことをここに決意する。

また、一昨年度創設したフォークリフト荷役技能検定は、今年初めて 1 級試験を実施し、一歩ずつ実績を積み重ねているところである。フォークリフト運転者の安全・正確・迅速な荷役

作業の技能を評価・認定するフォークリフト荷役技能検定を通じ、技能の向上を図り、荷役災害の防止に努めるものである。

さらに、過労死等の健康障害防止を重点として、今年度、全日本トラック協会、労働者健康安全機構と連携し、全国 47 支部で開催している過労死等防止・健康起因事故防止セミナーの実施等を通じて、陸運業における過労死等を撲滅し、陸運業で働くドライバー等の命と健康を守ることを決意するものである。

陸運業界は、人手不足、高齢化問題などの諸課題を抱え、依然として厳しい経営環境に置かれているが、我々は、人命尊重の理念の下に、労働災害の絶滅に向け積極的に取り組むとともに、健康で安心して働くことができる職場環境を実現し、企業並びに業界の発展に寄与するものとする。

このため、

- 一 経営首脳が先頭に立った安全衛生活動の積極的な推進
- 一 事業場の安全衛生水準向上の取組の推進
- 一 荷役運搬作業の安全の確保
- 一 交通労働災害の防止
- 一 健康確保対策の推進
- 一 安全衛生教育の徹底
- 一 安全衛生意識の高揚

以上の七項目を重点に、より一層努力を重ねていくことをここに誓う。

右、宣言する。

平成 29 年 11 月 6 日  
第 53 回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会

## 12 月 1 日から「安全衛生教育促進運動」が展開されます！ 正しい知識で 職場を安全・健康に！

「安全衛生教育促進運動」は、労働災害防止のために不可欠な安全衛生教育、特に労働安全衛生法に基づく教育等を促進するため、中央労働災害防止協会（中災防）が主唱する運動です。

中災防は、国の「安全衛生教育推進要綱」（平成 3 年 1 月 21 日付け基発第 39 号）、「第 12 次労働災害防止計画」（平成 25 年度～平成 29 年度）の趣旨を踏まえ、厚生労働省後援のもと、各労

働災害防止団体等の協賛を受けながら、この運動を 12 月 1 日から来年 4 月 30 日まで展開していくこととしています。陸上貨物運送事業労働災害防止協会も協賛団体として、本運動に参加します。

運動の実施要領等、詳しくは[安全衛生教育促進運動サイト](#)をご覧ください。

[安全衛生教育促進運動](#)で検索！

**事例発表 (要旨)****「『フォークリフト荷役技能検定』取得で災害撲滅への取組」**

秋田海陸運送株式会社 取締役総括部長 風間隆夫氏  
営業部現業課職長 中田孝氏

**1 フォークリフト荷役技能検定受検の動機**

弊社が保有するフォークリフトは、3.5t～4.5t のエンジン式 22 台、バッテリー式 9 台で、フォークリフト作業従事労働者は 109 名になります。

弊社では、内容または損害程度が如何なる軽微な事故であっても 1 件と計数し、事故の減少に取り組んでいますが、年間に発生する事故の中でもフォークリフトによる物損事故比率が高かったため、これを如何にして減少させるかが課題でした。

これまでに発生したフォークリフトによる事故の一例を紹介しますと、次のようなものがありました。

**○はい付け時に荷の落下により壁を破損**

倉庫内で梱包された単板をはい付けする際、誘導者の合図に従い積み付けていたところ、停止時フォークリフト運転者が急ブレーキをかけた為、荷がフォークから前方に滑り落ち、先にある壁を損傷させた。※急のつく運転操作を行った為発生。

**○2 段積みパレタイズド貨物の横転**

コンテナから 2 段積みされたパレタイズド貨物を出す際、フォークの爪幅調整を怠ったため重心が合っておらず、バランスを崩し貨物が横転した。※荷姿に合わせた爪幅調整を怠った為発生。

そうした折、弊社社長が陸災防のホームページを閲覧した際、2 級フォークリフト荷役技能検定実施を紹介している記事に気付きました。試験内容を確認した結果、この資格を取得させることで、必ずや運転者の安全意識と運転技術の向上を図ることができると確信するに至り、全社的に検定受検に取り組むことになりました。

**2 検定の受検準備 (社内における具体的な受検対策)**

**座学** (3～4 ヶ月前から閑散期に実施)

- ①フォークリフト運転士テキスト、はい作業安全必携、フォークリフト運転業務従事者安全教育テキストを配布。
- ②過去の問題集を配布。

**リフト点検、走行練習** (3～4 ヶ月前から閑散期に実施)

- ①自社構内に検定コースを作り、自社のフォークリフトを使用して走行練習。
- ②フォークリフト大会に出場経験のある他社の方に口頭で指導を受ける。
- ③点検においては 3～4 ヶ月前から社内のフォークリフトを使用して練習。
- ④走行においては 1～2 ヶ月前から本番で使用されるフォークリフトと同型車を使用して練習。
- ⑤陸災防から発信されている点検、走行の動画を視聴。

**3 検定受験による効果、今後の取組****(1)検定受検による効果**

フォークリフト運転者が技能検定の 2 級を取得することで自主的に安全、正確、迅速に作業を行う技能が向上した結果、作業効率向上及び軽微な物損事故防止に繋がっています。

また、従業員自らの技能が客観的に評価される検定合格に向けて、従業員自らが技能向上に向けた取組意欲が促進され、さらに後進の育成、指導にも繋がっています。

**○受検前の状況**

フォークリフト運転技能講習修了時において、各自が基本操作・動作を習得し業務に携わっています。しかし、時間経過と共に安全意識、確認事項・ポイントが希薄となって我流運転が表面化し、結果として事故に繋がっていました。

**○受検後の状況**

フォークリフトに関する次のような事項を各作業者が再確認することにより、各自の意識付けが変わりました。

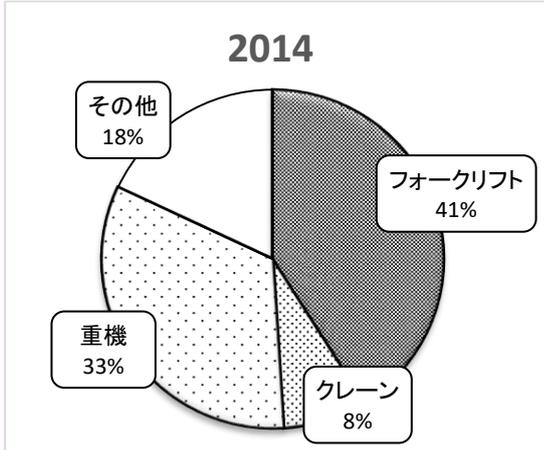
- ・フォークリフトの基本的な取扱い
- ・フォークリフトの発進・運転の操作及び心得
- ・フォークリフトの定期自主検査に関する知識
- ・フォークリフトの作業開始前の点検
- ・フォークリフトの制動装置に関する構造・知識

次の円グラフは、検定受検前後の各作業機械が起因となった物損事故の割合です。

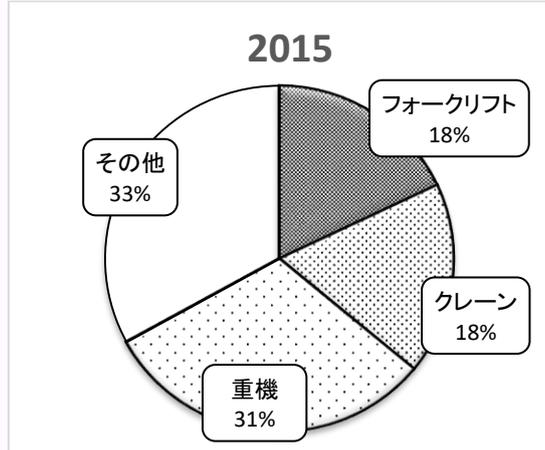
2014 年は、フォークリフトが起因する事故の割合が 41%と他の作業機械よりも高い割合を占めていました。フォークリフト荷役技能検定を初めて受検した 2015 年は 18%

半減し、2016 年には 10%と受検を重ねるごとに減少しました。2017 年 8 月末時点では、フォークリフトによる物損事故は 0%となっており、フォークリフト荷役技能検定受検の効果が現れております。

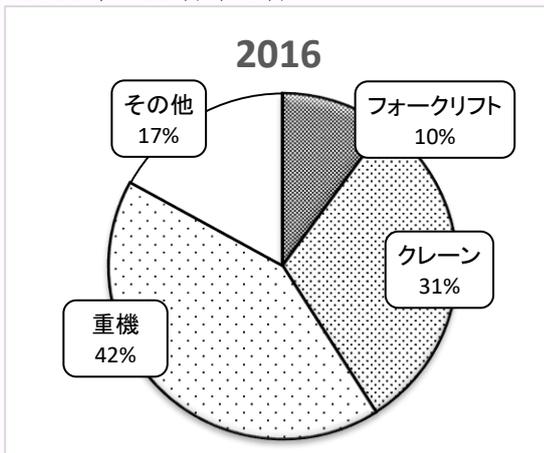
フォークリフト荷役技能検定受検前後の各作業機械が起因となった物損事故の割合



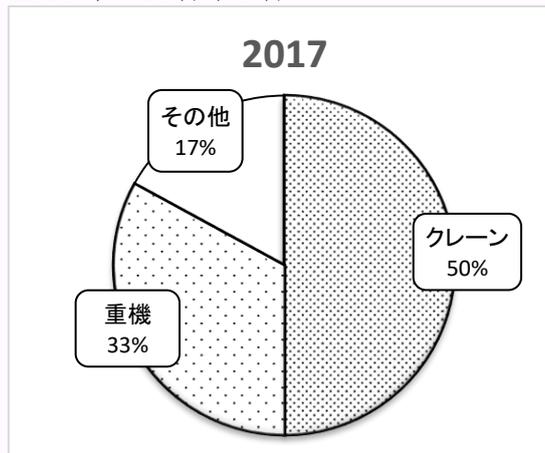
2014 年 12 件中 5 件



2015 年 16 件中 3 件



2016 年 19 件中 2 件



2017 年 6 件中 0 件（※8 月末現在）

(2)今後の取組

フォークリフト荷役技能検定に取り組み、受検したことで合否に関わらず改めて点検、基本操作、安全確認の再認識と重要性が得られました。今後においてはフォークリフト運転技能講習修了証所持者全員に受検させ、合格を目指し、フォークリフト運転者としての

安全意識の高揚、運転技術の向上を図ります。また、多様な貨物に対応できるよう、偏荷重を想定して作成した模擬貨物を使い、安全の再確認、荷役技能、運転技能を習得させ、フォークリフト作業事故 0 件を目指していく考えです。

◎秋田海陸運送様のご厚意により、次の URL から事例発表資料をご覧ください。ご参照ください。

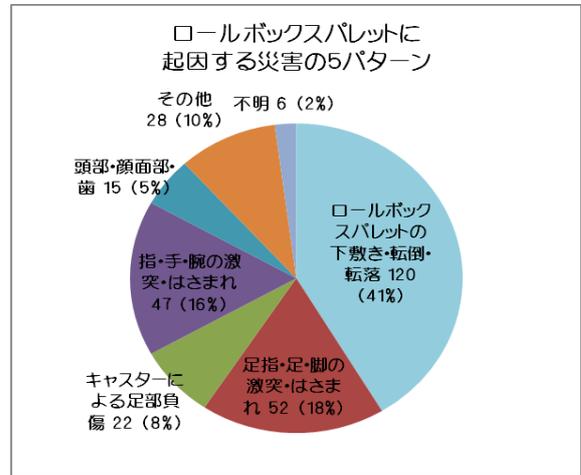


[http://www.rikusai.or.jp/public/katsudo/zenkokutaiikai/H29\\_53th/53th\\_jirei\\_akitakairiku-unso.pdf](http://www.rikusai.or.jp/public/katsudo/zenkokutaiikai/H29_53th/53th_jirei_akitakairiku-unso.pdf)

# ロールボックスパレット安全作業研修会のご案内

とても便利なロールボックスパレット（カゴ車）ですが、下敷きや手足の負傷による事故が多く発生しています。

- ◎ ロールボックスパレットの安全作業に関するセミナーを、47 都道府県にて開催します（参加費：無料）。
- ◎ セミナーでは、安全な使用方法についてお示しするとともに、保護具の紹介もいたします。
- ◎ ロールボックスパレットを使用する事業所の方々のご参加をお待ちしています。



## ロールボックスパレット安全作業研修会

**開催日**：下表参照

**場所**：47 都道府県（会場は支部へご確認ください）

**定員**：約 50 名(先着順)

**参加費**：無料

**内容**：① ロールボックスパレットとは  
 ② ロールボックスパレット起因による労働災害の実態と特徴  
 ③ ロールボックスパレットによる災害事例  
 ④ ロールボックスパレットの安全作業のポイント

**講師**：陸災防本部 安全管理士

**申込方法**：支部へご連絡ください。

**修了証**：研修の参加者には、本研修を修了したことを証する書面をお渡しします。



## 「ロールボックスパレット安全作業研修会」開催日程

都道府県	開催日	都道府県	開催日	都道府県	開催日	都道府県	開催日	都道府県	開催日
北海道(旭川)	12月5日(火)	茨城	12月15日(金)	東京	1月23日(火)	愛知	12月12日(火)	兵庫	2月7日(水)
宮城	1月17日(水)	栃木	2月7日(水)	新潟	2月2日(金)	三重	12月5日(火)	熊本	12月5日(火)
福島(郡山)	1月25日(木)	千葉	12月1日(金)	石川	12月7日(木)	京都	12月4日(月)		
開催終了都道府県	北海道(札幌)・青森・岩手・秋田・山形・群馬・埼玉・神奈川・富山・福井・山梨・長野・岐阜・静岡・滋賀・大阪・奈良・和歌山・鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知・福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島・沖縄								



## 過労死等防止・健康起因事故防止対策セミナー 開催のご案内

脳・心臓疾患の労災補償状況は、業種別に見ると、請求件数、支給決定件数ともに「運輸・郵便業」が最多であり、その中でも道路貨物運送業（業種別中分類）が最も多い状況にあります。また、事業用トラックによる交通事故は減少傾向にありますが、ドライバーの健康に起因する事故は増加傾向にあり、更なる労災防止対策として、過労死等防止・健康起因事故防止対策の推進が急務となっており、47都道府県にて「過労死等防止・健康起因事故防止対策セミナー」が実施されることとなりました。

本セミナーは、過労死等防止対策ならびに健康起因事故防止対策の具体的な取り組みについて、過労死事案の具体例などを踏まえながら専門家よりアドバイスを行います。是非多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

受講お申込みにつきましては、各都道府県トラック協会へご連絡ください。

主催 （公社）全日本トラック協会・各都道府県トラック協会  
（独）労働者健康安全機構 産業保健総合支援センター  
陸上貨物運送事業労働災害防止協会

### 平成29年度「過労死等防止・健康起因事故防止セミナー」開催日程

都道府県	開催日	会場	都道府県	開催日	会場
青森 (青森市)	2月8日(木)	青森県トラック協会研修センター	福井	1月26日(金)	福井県トラック総合研修会館
青森 (八戸市)	2月9日(金)	三八地区研修センター	長野	1月17日(水)	長野県トラック会館
秋田	1月24日(水)	秋田県トラック協会研修センター	岐阜	2月5日(月)	羽島市「不二羽島文化センター」
福島	12月13日(水)	県中研修センター	京都	1月19日(金)	京都府トラック協会
埼玉	3月6日(火)	埼玉県トラック総合会館	山口	2月16日(金)	山口県トラック協会研修会館
神奈川	2月16日(金)	神奈川県トラック総合会館	徳島	1月30日(火)	徳島県トラック会館
新潟	1月29日(月)	新潟県トラック総合会館	香川	12月7日(木)	高松市「ホテルパールガーデン」
開催日未定都道府県	北海道(帯広)・千葉・山梨につきましては、開催日未定です。決定次第お知らせいたします。				
開催終了都道府県	北海道(札幌)・岩手・宮城・山形・茨城・栃木・群馬・東京・富山・石川・静岡・愛知・三重・滋賀・大阪・兵庫・奈良・和歌山・鳥取・島根・岡山・広島・愛媛・高知・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄				



## 安全管理士 の着眼点

# 労働災害防止への取組

安全管理士 酒井雅彦

### 【労働災害発生状況（陸運業）】

12 月に入り、今年も残すところ、あと一か月あまりだが、ここに来て、労働災害の増加に歯止めが効かない。

11 月 7 日現在の速報によれば、

#### 死傷災害

全産業 87,125 人  
(前年比+1,229 人)

陸運業 10,800 人  
(前年比+458 人)

#### 死亡災害

全産業 701 人  
(前年比+32 人)

陸運業 87 人  
(前年比+23 人)

で、「事故の型」別にみると、

#### 死傷災害（陸運業）

墜落・転落 +159 人  
動作の反動・無理な動作 +99 人

#### 死亡災害（陸運業）

墜落・転落 +14 人  
はさまれ・巻き込まれ +6 人  
交通事故 +2 人

の増加がみられることとなった。

死傷災害は、平成 27 年に 13,885 人と 24 年以降徐々に 14,000 人を割り、28 年も 13,977 人となった。死亡災害も、28 年に初めて 100 人を切る 99 人となった。

しかし、29 年は、このままでは、死傷災害は 14,000 人、死亡災害は 100 人の壁をそれぞれ再び越えてしまいそうだ。

28 年に死亡災害が初めて 100 人から 99 人と減少したが、これは 27 年に比べ、「墜落・転落」災害△11 人、「崩壊・倒壊」災害△6 人によるものが大きい。しかし、29 年は、「墜落・転落」災害が大幅に増加してしまった。

「墜落・転落」災害の防止については、25 年度（第 12 次防初年度）から同年に策定された「荷役作業安全対策ガイドライン」に基づく指導を展開し、28 年の死亡災害の大幅

な減少に寄与してきたと思われるが、ここに来て元に戻ってしまったかのようなのである。

### 【「不安全状態」「不安全行動」「管理の不在」】

労働災害は、「不安全状態」の放置、「不安全行動」の黙認、それらを容認する「管理の不在」により発生しやすくなる傾向にある。

「不安全状態」は、自然発生的なものは別として、人がした結果又はしなかった結果で起こるもので「不安全行動」の結果だと考えれば、労働災害の撲滅には、「不安全行動」と「管理の不在」の是正に重点を置けばよい。

「不安全行動」を是正するには、指導・教育・訓練が必須となる。加えて、その成果が現場で発揮されているかを「監視・管理」することが必要である。

「管理の不在」を是正するためには、安全に関する会議を開き、立てた対策はキチンと継続的に実施されているかを誰がいつどのように確認しているか、見直す必要があるのではないかと。さらに、立てた対策が継続的に実施されていないのであれば、その対策に不備があるのか、対策を実施させる管理サイドに抜けがあるのか、対策を実行する労働者に問題があるのかなどを考えなければならない。

### 【管理・監督者に向けて】

古い資料から、ある事業場で災害を起こした作業者について調べたところ、

- ①教育されていない 9%
- ②教育されたが覚えていない 55%
- ③できなかった 15%
- ④しなかった 21%

とあり、教育されていても、その成果が現場にほとんど活かされていないことを示している。作業者教育にも工夫が必要である。

陸運労災防止協会の表彰制度による小企業無災害記録事業場〔平成29年10月〕					
第5種(15年間)	・株式会社メディカルネットワークサー ビス	栃木県支部	第2種(5年間)	・あいば商事株式会社	栃木県支部
	・関口運輸有限公司	栃木県支部		・株式会社ロビン	埼玉県支部
第4種(10年間)	・有限会社KK物流	栃木県支部	第1種(3年間)	・株式会社梅澤	栃木県支部
	・有限会社三盛運輸	栃木県支部		・北港運輸株式会社関東支店	栃木県支部

## 業種別労働災害発生状況

平成 29 年 11 月 7 日現在

業種	項目	死亡						死傷					
		平成29年1月～10月 [速報値]		平成28年1月～10月 [速報値]		前年比較		平成29年1月～10月 [速報値]		平成28年1月～10月 [速報値]		前年比較	
		死亡者数 (人)	構成比 (%)	死亡者数 (人)	構成比 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)	死傷者数 (人)	構成比 (%)	死傷者数 (人)	構成比 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)
全産業		701	100.0	669	100.0	32	4.8	87,125	100	85,896	100	1,229	1.4
製造業		125	17.8	131	19.6	-6	-4.6	19,731	23	19,652	23	79	0.4
鉱業		12	1.7	4	0.6	8	200.0	162	0	149	0	13	8.7
建設業		235	33.5	220	32.9	15	6.8	11,089	13	11,204	13	-115	-1.0
交通運輸業		9	1.3	12	1.8	-3	-25.0	2,341	3	2,426	3	-85	-3.5
陸上貨物運送事業		87	12.4	64	9.6	23	35.9	10,800	12	10,342	12	458	4.4
港湾荷役業		6	0.9	8	1.2	-2	-25.0	256	0	216	0	40	18.5
林業		29	4.1	26	3.9	3	11.5	1,009	1	1,210	1	-201	-16.6
農業、畜産・水産業		27	3.9	30	4.5	-3	-10.0	1,992	2	1,985	2	7	0.4
第三次産業		171	24.4	174	26.0	-3	-1.7	39,745	46	38,712	45	1,033	2.7

資料出所：厚生労働省

## 業種、事故の型別死亡災害発生状況（平成 29 年 1 月～10 月）

平成 29 年 11 月 7 日現在

業種	項目	合計	墜落・転落	転倒	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・ 巻き込まれ	交通事故 (道路)	交通事故 (その他)	その他
全産業		701	198	16	28	39	65	114	138	4	99
製造業		125	20	2	4	7	12	43	9	0	28
建設業		235	101	3	16	19	15	22	33	0	26
交通運輸業		9	0	0	1	1	0	1	4	1	1
その他		245	61	10	4	8	33	34	53	3	39
陸上貨物運送事業		87	16	1	3	4	5	14	39	0	5
同上対前年増減		23	14	0	-2	1	3	6	2	0	-1

## 業種、事故の型別死傷災害発生状況（平成 29 年 1 月～10 月）

平成 29 年 11 月 7 日現在

業種	項目	合計	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・ 巻き込まれ	交通事故 (道路)	交通事故 (その他)	動作の反動・ 無理な動作	その他
陸上貨物運送事業		10,800	3,113	1,592	852	547	323	595	1,212	649	6	1,590	321
同上対前年増減		458	159	80	74	-39	31	36	27	-19	0	99	10

(注) 上記 2 表の右端の列の「その他」は、「墜落・転落」～「交通事故(その他)」以外をまとめたもの  
詳細は、陸災防ホームページ <http://www.rikusai.or.jp> に掲載

## 「陸上貨物運送事業労働災害防止規程」の変更を行いました

陸上貨物運送事業労働災害協会規程は、平成 29 年 7 月 28 日付で厚生労働大臣より変更認可され、平成 29 年 10 月 26 日より施行されました。

詳細は、陸災防本部ホームページをご覧ください。

[http://www.rikusai.or.jp/public/gaiyou/kitei/kitei\\_20171026.htm](http://www.rikusai.or.jp/public/gaiyou/kitei/kitei_20171026.htm)